

安田 実佐子

瑞浪市の大湫に伝わる大湫神明・白山神社例祭は毎年10月第一日曜日の朝に行われる祭りである。祭り前夜に練習を、当日に祭りを見学した。

A. 「祭典神楽々譜」について

大湫には「祭典神楽々譜」という楽譜が残されていて、箏篳、横笛、笙、合竹、鼓之譜、神楽、名無しの譜「ヒウイヤロー」、^{まがりめ}曲目、戻車と題された9曲の楽譜が現存する。

このうち前半四つは雅楽で用いられる楽器の名前でそれぞれ箏篳、横笛（龍笛）、笙、合竹（これは笙演奏の際の和音のことで楽器名ではない）である。鼓之譜はよく唱歌を見てみると「神楽」の唱歌譜であり、横に付された○印は鼓を打つところだと思われるので、これは「神楽」の鼓の譜であろう。次の「神楽」という曲は右左という字や、◎、○などの印から「神楽」の太鼓のバチの強弱を意味しているのではないだろうか。題名ナシの曲「ヒウイヤロー」は「イキ」と皆が呼んでいたのが、「イキ」という曲。あとは^{まがりめ}「曲目」と「戻車」である。

B. 大湫祭りの囃子

大湫の囃子は使われる所により大きく三つに大別される。

1. 神事に使われる音楽・・・雅楽で使われる楽器を使う
2. 朝山車の前で神事開始前に演奏される音楽——囃子曲3つ・・・草笛を使う
3. 山車の曳行に演奏される道行の曲4曲・・・能管を使う

C. 囃子の使われ方

1. 神事に使われる音楽

「祭典神楽楽譜」に載っている箏篳、横笛、笙、のそれぞれの楽譜は、雅楽で使われる楽器、箏篳、横笛（龍笛）、笙の「越天楽」の楽譜だろうと思われる。

実際に演奏されていたのは笙が一人、箏篳と横笛が二人づつで、それに大太鼓（鉦打ち大太鼓）一人が入って演奏されていたが、大太鼓は「越天楽」には入らないので、おそらく祭りだということで、考案して入れられたのだろう。

2. 渡御前の囃子3曲

祭りの前奏曲として神事が始まる前の神明社の前、山車の外で演奏される。小太鼓2人、笛4～5人、大太鼓（平太鼓）1人。演奏は村の若手の男性ばかり8人ほど。

昔は各曲に名前があったのかもしれないが、今は伝えられていないので、1番、2番、3番という風に番号で区別しているとのことだ。テンポ（速度）は1番がいちばんゆっくりで、2番、3番と速さを増していく。

3. 山車の道行に演奏される曲

- ① 山車は神明社前に置かれた山車の前で囃子曲3曲（1番、2番、3番）が演奏される。
- ② その後神明社内で神事が行われ、「越天楽」が演奏される。神事は相当長く続く。1時間くらいか？
- ③ その後、神輿に神様がお乗りになり、山車を先頭に神輿がその後を続き、山車と神輿の曳行が始まる。白山宮に着くまで「ナカ」と言われる囃子曲が山車に乗った人により演奏される。
- ④ 白山宮でも神事があがり、白山宮の神様も神輿にお乗りいただき、白山宮からは「イキ」という囃子が

2 「岡崎女郎衆」の歌・旋律の特徴

「岡崎」のルーツである「岡崎女郎衆」は、江戸時代初期に三河国岡崎地方から広まったと言われる流行りうたで、歌詞は「岡崎女郎衆 岡崎女郎衆 岡崎女郎衆は良い女郎衆 岡崎女郎衆は良い女郎衆」とごく簡単なもの。前半と後半それぞれ2回ずつ繰り返される単純な歌詞と覚えやすい節回しが特徴的で、江戸時代初期の寛文4年（1664）発行の初心者向け稽古本『糸竹初心集（しちくしょしんしゅう）』には三味線と箏の曲として楽譜が載っている（楽譜1）。また貞享2年（1685）に出た『大怒佐（おおぬさ）』の三味線譜には「し、おどりの切に是を引く」とあり、早くから獅子舞の曲として知られていた。江戸時代17世紀前半にはすでに三匹獅子舞が成立していて関東地方に広まりだした

と想像され、早くも17世紀後半には出版物に載るほどの勢いがあったということか。現在「岡崎」は三匹獅子舞のほかに、関東、北陸、東海地方の祭礼囃子や里神楽の曲にも利用されており、大変息の長いヒットメロディーである。多くの場合、「岡崎女郎衆・・・」という歌詞が歌われることはなく（前項栃原の獅子舞では歌詞を歌う）、その旋律だけが利用されているのであるが、特徴ある旋律型からすぐそれに気付くことができる。特に冒頭の4個の4分音符による上行音型（レミミソ）は、後述の祭り囃子の唱歌の中でもその部分だけ「オーカーザーキ」の文句で唱えられ、原曲の存在をアピールしている（楽譜6）。

374 入江宣子 三匹獅子舞をめぐる「岡崎」の語根

1. 「岡崎女郎衆」：『糸竹初心集』より箏の「岡崎」 作譜 久野壽彦

2. 国立市谷保の獅子舞 女獅子隠しの笛

3. 国立市谷保の獅子舞 歌と伴奏の「岡崎」

6. 若狭の祭礼囃子の「岡崎」(福井県高浜町横町七年祭の「布袋車切」)

軽快に サツサイ イヤ

オカザキ ヒヒリヒョヒャ ヒリヒョニウヒョリヒョヒョ

Detailed description: This is a musical score for a drum piece. It consists of five staves of music in a single system. The first staff has the tempo marking '軽快に' (Allegretto) and the lyrics 'オカザキ'. The second staff has 'ヒヒリヒョヒャ' and 'サツサイ'. The third staff has 'ヒリヒョニウヒョリヒョヒョ' and 'イヤ'. The fourth and fifth staves continue the melody. The music is written in a single treble clef with a key signature of one flat and a 2/4 time signature.

7. 静岡県掛川大祭かんからまち 三角舞

ゆっくり

Detailed description: This is a musical score for a dance piece. It consists of three staves of music in a single system. The first staff has the tempo marking 'ゆっくり' (Ad libitum) and a fermata over the first note. The music is written in a single treble clef with a key signature of one flat and a 2/4 time signature.

「岡崎」と言われる歌についての全容を想像していただきたくて、少し多めに曲を載せた。

もともとは東海道の宿場町岡崎の女郎衆を歌った歌で当時たいへん流行し、それが1664年に発行された初心者向け稽古用楽譜として出版された『糸竹初心集』に取り上げられた。そしてそのはやり歌は獅子舞の曲やいろいろな民俗芸能に転用されているということである。筆者が関わった大垣祭りの中にも「岡崎」が原曲だと思われる「おきあがりこぼし」という歌があった。

さて、紹介が長くなってしまったが、この大湫祭りの囃子曲も3曲あるうち3番の囃子が一番「岡崎」の旋律に近い。冒頭部のレミソラ(少し旋律は装飾されている)の旋律は繰り返され、17小節目~28小節は中間部、29小節目から最後はレミミソという旋律が見えるが繰り返しはない。

1番の囃子も冒頭部にシレミソという旋律の骨組みが2回繰り返される。次にレミソラシという音が現れ、ドまで達している。21小節からはソミレの下降旋律の繰り返しが現れ、繰り返しがあるといふ「岡崎」の特徴に合致している。

2番だが、最初の4小節には臨時的に音の下がる旋律がある。次の4小節はレミソラシという上行旋律が現れ、ここがこの曲の唯一の「岡崎」似のところである。次はソミの繰り返しで、最後まで見てみるとソミレシラという下降旋律になっているし、繰り返しもない。使われている音は同じようであるが、繰り返しがなく、上行旋律も1回のみであることなどから、「岡崎」とは言い難いかもしれない。しかし、よく似た音が使われていることなどから「岡崎」の派生曲とくらは言えるのではないだろうか。

いまだ「岡崎」の曲の定義がはっきりしていないので、あまり確かなことはいえない。今後「岡崎」だと言われる曲についての定義についての詳細な研究が必要となるだろう。お隣の宿場町、細久手にも同じような曲があると聞いたので、そちらのお祭りの研究も必要だろう。いずれにしても、中山道の宿場であった大湫は文化が行き交う場所であり、街道筋に遠くからの歌が運ばれてきたとしても不思議はない。

最後になったが、小太鼓のリズムは細かいリズムがたくさん出てきて、かなり現代的な感じがする。

イキ

この曲は神明社から離れる場合に使われる。以下に示したものが楽譜に書かれたイキの唱歌譜である。これの横に名古屋の紅葉狩車の「唄神楽」という曲の口唱歌を並べて見た。

イキ

ヒウイヤロー、ヒウイヤロ、
フウラーラールラア、
ライツ、ロロイヨオイヨオ
オヒュイヒュイライ、チウホ
オヒュイ タウタウ・・・タ

~~~~~  
オヒュイラァイト、オヒュイラ  
オヒュイラト、——、ルロ——  
ライツライツタロタロラ  
オヘラールロルロ

唄神楽 (名古屋、紅葉狩車)

ヒューイヤロ ヒューイヤロ  
フーラーラリウラ  
ラリウ ライヤ ロラウヒヨ  
オヒャ オヒャ ラヒウヒヨ  
ヒャイ タウタ ロラウヒヨ

昭和三十一年七月編曲 犬飼 勇  
紅葉狩車専用

The musical score is a complex arrangement for 'Uta-Kagura'. It features multiple staves for different instruments: flutes (笛), small and large taiko drums (小太鼓, 大太鼓), and a bell (釣鐘). The notation includes rhythmic patterns (e.g., 4-6, 2-4-6) and melodic lines with note heads and stems. On the right side, there are vertical labels for '山車進行' (float procession), '唄' (song), '神楽' (kagura), and '釣鐘' (bell). The score is written in a traditional Japanese notation style.

5行で成り立っている唄神楽であるが、特にこの名古屋の唄神楽4行目の「オヒャ、オヒャーラ、ヒウヒヨ」という箇所のリズムが唄神楽そのもののリズムになっているため、判定しやすいが、厳密な音程はやはり元歌からはだいぶ離れている箇所が多い。それでもリズムが割合元歌に忠実であるので、辿りやすい。しかし、イキの6行目から（～線部分より最後まで）は異なる曲が紛れ込んだのかもしれない。6行目から先は曲名が特定できない。

この唄神楽という曲は、昔の東照宮祭では京町の小鍛冶車が演奏していたものと言われる。それを紅葉狩車の犬飼勇氏が昭和38年に紅葉狩車専用として編曲して今も紅葉狩車に伝わっている曲となっている。この曲はまた「八兵衛神楽」とも言われて清洲の枇杷島祭りにも演奏されるし、犬山の能管町内では夕方に演奏する「ととえむさ」や「さざえむさ」（いろいろな言い方がある）などとして伝わっている。

曲目 (まがりめ)

曲の使われる場所 (角曲がり) や唱歌から判断するとこれは間違いなく、名古屋や犬山の「車切」という曲である。「車切」は県下に幅広く伝えられているが、下の譜例 (犬山・魚屋町) に記したように音程は多少違ってても旋律の切れ目などのおおまかなリズム構造はだいたい似ていることが多い。が、ここの「曲目」は活発な雰囲気はよく伝えられているが、車切の曲からは相当離れてしまっている。

曲目 (まがりめ)

オヒヤイト、リイヤアーリ、  
リイヤアーリ  
オヒヤイトヒヤイト  
ヒヤイトウ、ルロー  
チリリーオールウロオ、  
ヒュウウタウタウ リイヤーリ

車切 (犬山 魚屋町)

オーヒャーリト。 リヒャーアリ  
リーイヒャーリ。ヒャーリーヒャーリ  
オーヒャーリト リーヒャーアーリーイ  
ホウホーウーホウホーウー  
ホウホーウーホウホー  
ヒューイタウタウリーヒャーアリ

犬山祭りの魚屋町の「車切」の唱歌譜を並べて示した。犬山では実際の音を各自がそれぞれの聴き方で旋律を言葉にして書き留めたので、町ごとに唱歌はだいぶ違う。比較的似ていそうな曲を選んでみた。

車切 犬山祭り・魚屋町

安田実佐子採譜

オ ヒャ リ ト リ ヒャ ア リ リ イハ リ ヒャ リ ヒャ リ オ

9  
ヒャ リ ト リ ヒャ ア リ イ ホウホ ウ ホウホ ー ウ

17  
ホウホ ウ ホウホ ヒュ イ タ ウ タ ウ リ ヒャ ア リ

車切をするときの緊張感のある、活気に満ちた雰囲気は残っているが、曲の旋律自体はほとんど伝えられていない。今度刊行される予定の名古屋の山車囃子「車切」の比較譜も添付した。この4曲の中では紅葉狩車の現行の囃子が一番近いだろうか。犬山の「車切」と比較してみても、構造はほとんどぴったり一致する。

## 戻車

神明社に向かって山車を曳く場合に演奏される曲。

これは、犬山、魚屋町の「テコテン」とか中本町の「フラール」など犬山祭りの報告書の第八章第五節「曲目」の中に能管囃子の系列表が載っているが、その中の第三系列として類別されている系列に属するものと思われる。藤田流宗家の藤田六郎兵衛氏に聞くとところによれば、「三番叟」のヴァリエーションであろうとのことであった。犬山祭りの魚屋町の「テコテン」という曲と比較してみた。

### 大湫祭り・「戻車」と犬山祭り・魚屋町「テコテン」 との比較

The musical score is presented in two systems. The first system shows the beginning of both pieces. The second system, starting at measure 9, continues the comparison. The third system, starting at measure 17, shows the final phrases of both. The notation includes treble clefs, a key signature of one sharp (F#), and a 4/4 time signature. Lyrics are written below the notes in hiragana.

大湫戻車  
フ ア ル ラ ル ラ フ ア ル ラ リウ ヒ

魚屋町  
テコテン  
フ ヒャ ル ヒャ ル ヒャ リ フ フヒャ ル ヒャ リブ ヒューイ

9  
ヒュ イヤ ロ ヒュウ ヒュ ヒュ ヒュ イヤ ヒュ イヤ ヒュ イヤ ロ  
ヒュ イブ ヒュ イ オ ヒュイ ヒュ ヒュ イブ ヒュ イブ ヒュ イヤ ロ

17  
オ ハン オン ヒャ イヒャイ ロ フウ ロウロ ヒウ ロウ ロ  
オ ハン オ ハン ヒャ ンヒャ ロ オ ヒュイ ヒュイ ヒュ イブ ホウホ -

唱歌だけを比べてみても、かなり両者は似ていることがわかる。

#### E、全体の考察・感想

伝わり方はかなり不完全であるが、雅楽の「越天楽」も伝わっているのは驚きであった。せっかくなので、是非どこかで指導を受けてなんとか受け継いでもらいたいものだ。また、さすがに街道筋の宿場町だけあって、三河の岡崎に流行った「岡崎」らしい曲があったのには感動した。こちらは草笛使用で耳に馴染みやすいこともあり、演奏も軽快で楽しそうだった。山車囃子はおそらく犬山から伝わったものだと思うが、「神楽」は現在の犬山では伝承されていない。名古屋からの伝承なのであろうか。難しい「神楽」がよく伝わっていると思う。県下広く伝わっている「車切」がここではリズムが崩れてしまい、あまりきちんと伝えられていなかったことは意外である。「イキ」と「戻車」はおそらく犬山祭りの影響が強いのではないだろうか。